



結

yui

2018. 1. 20 No.79

発行「憲法9条の会つくば」

〒305-0005

つくば市天久保 1-10-12 1-401

TEL 080-5888-7824

Fax 029-856-2286



<http://peace.arrow.jp/tsukuba2/>

明けましておめでとうございます。 本年もどうぞよろしくお願いたします。



昨年は憲法9条の会つくばの諸活動にご協力いただきありがとうございます。今年は安倍政権が通常国会（1月～6月開催）で9条改憲の発議をしようとしており、年頭から厳しい情勢が予想されます。世話人、賛同人の皆様のご知恵と力を集めてつくばの9条の会らしい活動に取り組んでいきたいと考えております。

新年は、松の内の1月3日から行動を開始しました。1月3日の「アベ政治を許さない」スタンディングでは寒風の中にぎやかに、3000万署名の横断幕を掲げて道行く人々にアピールしました。また、1月21日には19人の呼びかけ人と23の賛同団体が共同し「安倍9条改憲NO! つくばで3000万署名を集める会」を開催し、「安倍9条改憲NO! 市民アクションつくば連絡会」を発足させる運びとなりました。当会も連絡会の賛同団体として、「安倍9条改憲NO! 憲法を生かす全国統一3000万署名」に全力で取り組むことを訴えます（署名用紙は前号のニュース「結」に同封してお送りしてあります）。

一方、自民党・安倍政権は、改憲議論を急加速させています。2019年には現天皇の退位と新天皇の即位、参議院選挙があるため、安倍首相が掲げる20年の新憲法施行を実現するには、18年中に改憲の国会発議をしなければ間に合わない、と改憲原案作成を急ピッチで進めています（詳しい情勢は2面の「9条の視点から」をご参照下さい。）。

2018年は、安倍改憲を阻止する「正念場」というべき1年になります。改憲阻止は戦争阻止への道、正義は我々の側にあるのは明白です。力を合わせて、堂々と明るく行動していきましょう。

憲法9条の会つくば共同代表

武田照子、野崎浩司、穂積妙子、堀部一寿、三浦克洋





安倍改憲の今、その波及効果を考える

九条の会茨城県連絡会

代表 田村武夫（茨城大学名誉教授）

元旦の各紙は、一面に「改憲、今年中の発議めざす 自民方針」との大見出しが載った。

明らかに、自民党・安倍政権は、2018 年中の改憲案の国会発議を目指し、議論を加速する方針を決めた。改憲諸党（公明・希望・維新）と合意形成が進めば、発議は 18 年 6 月の通常国会終盤か、秋の臨時国会、国民投票は 18 年末か、19 年春までとなる。

改憲日程の固まりは、年末 12 月 20 日に自民党憲法改正推進本部が「改憲への論点整理」を確認し、議論の範囲を絞り込んだこと、つまり、改憲対象が特定されたことによる。2012 年 4 月の自民党憲法改正草案に示された全面改正案から部分改正案に選択変更し、いくなれば一点突破に全党を集中動員することに決めたわけである。憲法改正の実現にむけて細心の注意を払っていること（失敗は許されない）が看取される。

よく知られているように、「論点整理」は、推進本部でのこれまでの検討結果をまとめたもので、10 月の衆院選で政権公約の重点項目に掲げた、自衛隊の明記▽教育の無償化・充実強化▽緊急事態対応▽参院の合区解消一の 4 項目を取り扱っている。ここには、時間をかけて党内外の関心と議論をどこに終着させるかの用意周到ぶり、そして、改憲の焦点内容を国民に浸透させる一種の啓蒙・宣伝を先行させている意図に注意する必要がある。

急進展の背景には、北朝鮮へのトランプ米政権の軍事オプションに自衛隊を参戦させようとする圧力がつよまっているからであろう。安倍政権が朝鮮半島有事にそなえて自衛隊の対応を検討している旨報道された（東京新聞、2017 年 12 月 31 日）。米軍による北朝鮮への先制攻撃や北朝鮮軍の韓国侵攻、両軍の偶発的な衝突、北朝鮮ミサイルの日本着弾などへの対応を想定している。これらの想定は、安全保障関連法に基づくもので、違憲の法運用・自衛隊参戦だという厳しい批判を覚悟せざるをえない。

昨年春、南スーダンに自衛隊が駆けつけ警護で派遣されたものの違憲批判の前に直ちに撤退を余儀なくされた二の舞を避けることが安倍内閣に課せられている。憲法 9 条改定＝自衛隊の明記が解決の鍵である。

4 項目のうち 1、教育の無償化・充実強化、2、緊急事態対応、3、参院の合区解消、は、いずれも基本的人権にかかわるもので、1、はわが国が批准している国際人権規約や教育基本法の無償化条項を無視してきた歴代政権の怠慢問題、2、はすでに憲法に制度化されている参議院緊急集会（内閣への権限集中回避）で対応可能、3、は投票価値の平等を否定する主張で憲法改正ではない別の選択肢がある、ということで憲法改正項目としては切実さもないし国民の求める程度は低いといわざるをえない。

結局、憲法改正の焦点は、そして自民党・安倍政権が狙っているものは、9 条改憲＝自衛隊明記である。

「9条3項加憲」の重大な「波及効果」

自衛隊の存在や任務を憲法で明記することは、最高法規による自衛隊の公共的価値存在を認定することを意味しており、その「波及効果」は甚大である（安保法制＝戦争法を合憲化すること、従来 of 制限的「自衛力」から際限のない「戦力」の保持へ、徴兵制、徴用制の合憲化などなど）。従来自衛隊（法制）に課されていたさまざまな制約が取り払われて、自衛隊は本格的な「国防軍」となると考える。そして、そのことは、日本社会全体にも多大の影響を及ぼすことになる。軍事の論理が大手を振ってまかり通る社会への転換がなされるであろう。

※詳しくは、水島朝穂「安倍『九条加憲』に対案は必要ない」世界 1 月号、九条の会『安倍 9 条改憲は戦争への道』を参照

戦争について考える ——ナチスの時代

1. 強制収容所博物館を見学して

昨年夏、ドイツのベルリンに滞在する機会があった。関心があったナチスの強制収容所を訪ねた。ベルリン近郊にザクセンハウゼン収容所があり、電車で40分ほどで着いた。「ナチ強制収容所」にはいくつかのタイプがあるようだ。手元の資料では、1933年から1945年までに、ヨーロッパで19か所作られ、8か所がドイツ領内にあり、よく知られるアウシュビッツはポーランドのドイツ国境近くにある。他には、チェコスロバキア、オーストリア、フランスに1か所ずつある。全部の収容所で1800万人が収容され、うち1100万人が犠牲になったとされている。アウシュビッツではここだけで150万人以上が犠牲となった。

収容所の性格は、3つくらいあるようだ。一つはアウシュビッツに代表されるユダヤ人収容者の絶滅を目的とした所、二つめはユダヤ人政策の変化に応じた収容所で、チェコのシェレージンシュタットは、ドイツ人と結婚していたため初期には拘束されなかったユダヤ人がその後権利を剥奪されて収容された。三番目に、ベルリンの北のラーフェンスブリュック収容所は、女性と子どもを収容した。

訪れたザクセンハウゼンは、ユダヤ人に限らずナチスに反対したドイツ人地下抵抗組織の逮捕者なども収容したらしい。現在は全体が博物館として整備されている。「労働する者は自由になる」。収容所の入り口の鉄の門に、こんなむなしい標語が残されている（この頁上の背景写真）。収容者達はこの下を通過して行ったのだ。写真1は収容所敷地内部で、正三角形の敷地に当時は平屋のバラックが隙間なく建てられていた。多くは居住用バラックで、ほかに収容者に工芸品を製

作させる建物、「診療棟」、「病理棟」などと呼ばれるバラックがある。それらの内部は当時のまま残され説明パネルは当時の状況や建物内で行われていたことを詳細に語っていた。この収容所では人体実験も行われていたらしい。逃亡は死を意味していた（写真2）。

見学のあいだ、ナチスはなぜこんなむごいことが出来たのだろうかという疑問が心を去らない。それもあり、コマンダー棟と呼ばれる場所に長く留まった。収容所の指揮官達が事務をとった建物だ。その一室に、20名ほどの指揮官の経歴や収容所での役割・「実績」・戦後の処罰、などを記した個人ファイルがあり誰でも見ることができる（写真3、4）。

指揮官達はここで、一人一人の収容者の健康状態のデータを調べ、労働できるかどうかを判定し、使役に耐えない人は、最後を意味するZハウスと呼ばれる建物に送った。Zハウスの中に人体焼却装置があり、隣には焼却灰を埋めた施設がある。収容され犠牲となった多くの人達の元気な頃の写真が痛ましい。1945年春、ソ連軍の侵攻が近づいた時、収容者たちは西に向かって「死の行進」をさせられた。脱落者は銃殺されるか見捨てられたという。

現在のドイツが自国の負の遺産についてこれほど詳しく展示しているのは、これらの過去を二度と復活させないという決意の表れなのであろう。所どころに見学者が手向けた花束がおかれている。大勢の若者が見学を訪れていて心強く思った。

博物館の説明パンフに、本収容所は1945年にソ連軍により解放されたが、その後1950年まで、ソ連は施設の一部を収容所として使い6万人が収容され、そのうち1万2千人が飢餓や病気で亡くなったとある。どんな目的でなのか気になった。今年1月にBS放送



写真1

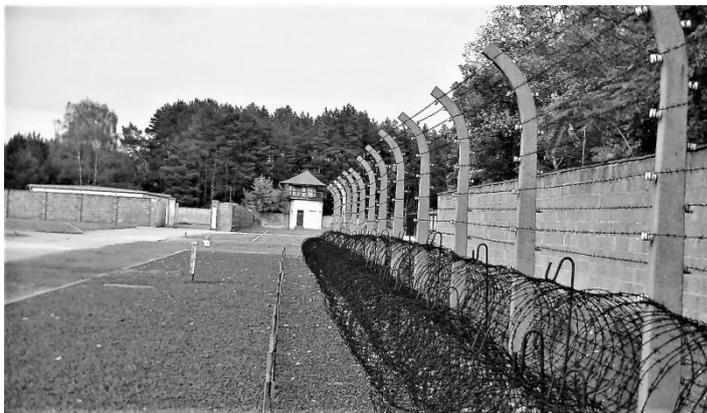


写真2



写真3

で、終戦時東欧からドイツに戻る一般ドイツ人が各地で報復の暴力を逃れながら難民としてベルリンを目指している映像をみた。終戦時の混乱は、収容所の再利用を必要としたのだろうか。人々の不幸は戦争が終わっても続く。

帰るみちみち、「なぜこんなことが？」という思いがまた浮かぶ。途中で電車に乗ってきた2匹の犬のしつけの良い「乗客」ぶりに心が癒される。

2. 戦時下の抵抗者たち

つくばにもどって、ナチス時代を描いた本をいくつか読んだ。その中で、「ヒトラーに抵抗した人々」(對馬達雄、2016、中公新書)は、とても参考になった。以下はこの本にみられる抵抗グループの行動である。

ミュンヘン大学生**ハンス・ショル**、**ソフィ・ショル**兄妹ら4名は、ヒトラー打倒のビラ配布活動(白バラ運動)をする。これは映画にもなり日本でも知られている。1943年2月、刑場に散った兄弟らの活動を姉のインゲ・ショルが1953年に本にした(邦訳「白バラは散らず」1964、未来社)。

クラウス・シュタウフェンベルグ少佐ら軍人グループ。1943年7月20日、ヒトラーの会議の席で爆発が起きたがヒトラーは無事だった。彼らグループは、ドイツの未来のためヒトラー排除を計画した(7月20日事件、関係者はすべて刑死)。

ルート・アンドレアス、**夫レオ・ボルヒャルト**、**娘カーリン**を中心とするベルリンのユダヤ人救援組織(「エミルおじさん」グループ)の活動。

ルート・アンドレアスは、ナチスの時代を生き延び、1945年に彼女らグループの活動をその著書(邦訳「ベルリン地下組織一反ナチ地下抵抗運動の記録」1991、未来社)でリアルに描いている。彼らは、親しいユダヤ人や仲間から依頼されたユダヤ人の国外脱出を助け、国内にとどまるユダヤ人に隠れ家を提供し、食料の手配に奔走する。しかし、失敗例もあり、ある仲間が、郊外のペンションに潜伏者をかくまうが、疑いを抱いたその女主人は我慢できず、警察に通報する。

ルート・アンドレアスは、ベルリンで見聞きしたナチスの非人間的行為を記録している。①ヒトラーは、ソ連軍・連合軍が東西からベルリンに迫る中、狂気に任



写真4

せ、抵抗した著名人の絞首刑場面を映画に撮影させる。②刑務所では処刑を待つ人々はすべての着衣を脱ぐよう命じられて死に臨む。衣類を糸の原料に再利用するためだ(生還した収容者の目撃談)。③犠牲者の遺族には、死刑手数料300マルク、判決執行料158マルク、その他食費・身柄移送料・郵便代など17マルク、合計474マルクが請求される(今の感覚では約40万円か)。

地下でヒトラーに抵抗した人は、他にもモルトケ伯爵、ハラルト・ベルヒャウ(ベルリンのテゲル刑務所牧師)など数多くいる(「ヒトラーに抵抗した人々」)。

これらの抵抗者たちは、日々ゲシュタポなどの監視に加え、ヒトラー政治を自分の暮らしにとって恩恵と感じている一般市民の監視と密告が潜む「海」の中を泳いで危険な行動を取らなければならなかった。前記のペンションの女主人の「通報」がその例である。ショル兄妹の場合も、ビラ配布の時ミュンヘン大学の建物警備員の通報で逮捕されている。

對馬達雄さんは、「ヒトラーに抵抗した人々」の中で、戦後これらの抵抗者たちの行動がドイツ国民に受容されるまでに、長い年月が必要だったと書いている。彼らは体制に歯向かった犯罪者ではないかとの思いが抜けきらなかったらしい。彼らの考えと行動は、あたかも自分たちに突き刺さってくるように感じたドイツ国民も多かったのだろうと想像する。時局の推移に耳を澄まし、二度と戦争という破局を招くまいという敏感さを多くの人に持ってもらうことが憲法9条を守ろうとする私たちに求められていると感じさせられた。

1945年4月27日、待ちわびたベルリンに侵攻してきたソ連兵の前に**ルート・アンドレアス**は、瓦礫のなかから**夫ボルヒャルト**とともに出てゆく。ヒトラー部隊の支援者と疑われ銃を向けられるなか、モスクワで生まれたと言うボルヒャルトにソ連軍士官はソ連国歌を歌ってみよと命じる。彼がロシア語で全て歌いきったとき、二人はいっせいの笑顔で迎えられる。ルートが上記著書に書いたこの場面は、映画のラストシーンのように感動的である。ヒトラーが自殺する3日前のことである。(完)

三浦克洋(九条つくば共同代表)

「憲法9条の会つくば」の活動から



◆賛同人 2018年1月9日現在
総数 972名 (市内 703名)
◆3000万署名 1月18日現在 351筆

当会では毎月第3日曜日に定例署名、9日に9の日署名を行なっています。その他、「戦争をする国づくりNO@つくば」と共に、毎月3日「アベ政治を許さない」スタンディングと署名を行ないます。

@つくば共同行動 スタンディング

▼2018年の署名活動は、1月3日から始まりました。1月3日は、クレオ広場で「アベ政治を許さない」のスタンディングをしながら「安倍9条改憲NO! 3000万署名」を同時に実施しました。気持ちも新たに総数12人が参加しました。3日は風の強い寒い日でした。まだ幕の内だというのにクレオ広場を通り過ぎる人の数は多くはなく、憲法9条改憲に反対しようというスピーチが流れる中、みんな足早に通りすぎて行きます。それでも、1時間で10人の方が寒風の中を立ち止まり、凍える手にペンを握りしめ「安倍9条改憲NO! 憲法を生かす全国統一署名」用紙にお名前を書き下さいました。「寒いのに大変ですね」「頑張ってください」励ましのことばと微笑みを残し…。素晴らしい人たちがいる！ この人たちと一緒に憲法9条を守ろう、という思いを強くした署名活動でした。(長田)

つくばでは、9条つくばが例年、成人式の会場前で新成人に署名を呼びかけるのですが、今年は式典の混乱を恐れたつくば市が、会場近くの警備を強化したため、成人式署名をすることが出来ませんでした。残念！！

定例・ 9の日署名

▼1月9日の「9の日署名」は、前日までの寒さとは違って雨も上がり、風もない暖かい陽気の中で実施されました。参加者は5人。最近、「自分は9条改憲に賛成だ」と言って通り過ぎる中年男性が増えているように思います。北朝鮮の脅威を理由に、抑止力として軍事力強化を目指す政府の思惑が影響しているのでしょうか。

憲法9条の会つくば 会計決算報告 2018.1.12 2017年会計年度 2017年1月～2017年12月 収入

前期より繰り越し	
口座	496,094
現金	50,502
小計	546,596

今期収入

賛同人カンパ(口座)	282,000
賛同人カンパ(現金)	133,500
12周年のつどい	210,023
冊子売上	1,500
その他	76,808
小計	703,831

収入合計	1,250,427
------	-----------

支出

「結」関係	187,755
行事関係	45,681
12周年のつどい	300,177
その他(ポスター、チラシ印刷代、集会分担金、事務経費、フェスタバス代など)	74,760
支出合計	608,373

差引残高	642,054
口座	527,292
現金	114,762

収入 - 支出	642,054
---------	---------

一方、声掛けをすると余りためらうことなく、立ち止まって署名して下さる方も居られます。こうした方が、確実に増えていると実感しています(署名担当)。

12.8 不戦のつどい 「戦争する国」の作り方

12月8日は第二次世界大戦中の1941年、日本が、アメリカ、イギリス、オランダ領を奇襲攻撃して太平洋戦争が開始された日です。戦争を絶対繰り返さないために、つくばでは戦争体験を語り継ぎ、平和を守り活動を交流する「不戦のつどい」を毎年12月8日前後に開いてきました。2017年は「戦争する国」の作り方ー「先の大戦」から考えるーと題して茨城大学の佐々木啓さんに講演いただきました。「日中戦争」から「太平洋戦争」、1945年の敗戦まで、最初は戦争に反対していた政治家や国民も戦争が広がるにつれて、反対ができない状況になりました。このことを考えると、安倍政権により、特定秘密法、安保法制、共謀罪と、戦前を思わせる法律がごり押しで成立させられ、憲法9条の改正を具体的な日程にのせられている中、反対ができる今は非常に大切な時期だと思います。これまで、このつどいは戦争体験者の方々に話を聞いてきましたが、高齢になりなかなか話していただける方が非常に少なくなってきました。また、ここ数年は若者の参加が少なくなっていることから、実行委員会では若者やこれまで戦争や平和についての集まりに参加されていない方々にも関心をもっていただける内容について話し合いました。今回は参加者の方々と平和の問題、職場や地域の様子などについて意見交換を行い、今後のこのつどいの持ち方への意見もいただくことと計画しましたが、講演内容が充実しており、話し合う時間はありませんでした。今後も多くの方が参加しやすい、つどいを計画していきたいと考えています。(児玉正文)

カンパのお願い

今年もカンパのお願いをさせていただきます。金額の多寡は問いませんので、皆様のご協力よろしくお願ひいたします。憲法9条の会つくばは設立後12年を経過しましたが、今年はいよいよ決戦の年です。一人ひとりがあらゆるつながりを生かし、安倍首相のもとでの9条改憲発議反対の声を広めていきましょう。

2018.1.20

憲法9条の会つくば世話人一同

映画『否定と肯定』

(2016年/イギリス・アメリカ/110分)

2000年1月、イギリスの王立裁判所で歴史的な裁判が始まった。原告はイギリスのヒトラー研究者デイヴィッド・アーヴィング、被告はユダヤ系アメリカ人でホロコースト研究者のデボラ・E・リップシュタット。彼女が著書でアーヴィングをホロコーストの否定論者として痛烈に批判したために、名誉棄損で訴えられたのだ。イギリスの司法制度では、訴えられた側に立証する責任がある。それゆえ、訴えられたリップシュタットは、アーヴィングが唱える“ホロコースト否定論”を崩す必要があった。

映画では、裁判に向けてイギリス人弁護団が、アウシュビッツの現地調査やアーヴィングの膨大な日記の読み込みなど、周到な準備をしていく様が描かれる。弁護士たちの冷静な作戦と人柄も、法廷での精緻な弁論も、臨場感をもって観る者に訴える。弁護団は、アーヴィングの主張の虚偽を暴き、彼自身が人種差別主義者であることを明らかにしていく。

リップシュタット（本人）は、この裁判の勝訴について次のように述べている。「事実と真実の勝利でした。事実、意見、うそという三つがあり、相対的な真実というものはありません。地球は平らではない、エルピス・プレスリーは死んだ、ホロコーストは起きた——これらは事実です。ホロコースト否定論者は、うそを意見のよ



うに見せかけて、それが事実を侵食していくようなことをやっています。今の時代、同様なことが起きてとても危険です。アメリカでは権力者がうそについて真実だと言い募る。事実を精査する必要がありますね。」彼女の著書『ホロコーストの真実』では、日本の南京大虐殺否定論などを挙げ、ホロコースト否定論との類似性を指摘している。「大事なのは、間違いを犯したことを認識することです。ドイツも第2次大戦の時の過ちを認めた。国家が過ちを犯したと認識することは、むしろその国が称揚されることにつながると思いますね。」

映画のパンフレットに、憲法学者・木村草太氏の文章がある。「否認の背景には差別感情がある。ユダヤ人や中国人に対して差別感情を持つ人々は、ホロコーストや南京大虐殺の否認を喝采するだろう。差別主義者という歪んだコミュニティではあっても、その中で上り詰めれば、それなりの『名誉』を獲得する。出版や講演を通じて、経済的にも得をする。政治家にとっては票にも結び付く。これだけの見返りがあれば、彼らが熱心になるのも当然だ。」それを防ぐには、どうしたらいいのか。

「メディアには専門家と称する人々の主張内容を検証し、取捨選択するリテラシーが求められている」が、「喝采する聴衆がいる限り、販売部数や視聴率あるいは広告収入を追い求めるメディアは、（否定論を）言論空間から追い出さないだろう。こうした現象を止められるのは、一般の人々の知的誠実さだけだ。」（後藤）

行動予定

インフォメーション

◆映画「米軍(アメリカ)が最も恐れた男 その名はカメジロー」沖縄の抵抗の歴史を、沖縄人民党首瀬長亀次郎のドキュメンタリー映像を通して描く。テーマ音楽は坂本龍一。語りは大杉漣。

上映日&時間：2月2日(金) ①10:30 ②14時 ③19時 つくばカピオホール

2月20日(火) 上映時間はつくばと同じ 水戸県民文化センター小ホール

◆ザ・ニューズペーパーつくば公演～あのニューズペーパーがつくばにやってくる！

公演日&時間：3月24日(土) 14:00(開場 13:30) つくばノバホール

入場料 4000円(友の会 3600円) *残席少ない様子。問い合わせ：つくば文化振興財団 (029-856-7007)

- 1月21日(日) 13:30~16:00 「安倍9条改憲NO! つくばで3000万署名を集める会」 つくば市ふれあいプラザ(茎崎)
- 2月3日(土) 13:00~13:30 アベ政治を許さないスタンディング TX つくば駅 13:30~14:30 3の日署名行動(3000万署名)
- 2月9日(金) 12:00~13:00 9の日署名行動(3000万署名)
- 2月17日(土) 10:00~12:30 事務局会議 つくば市民活動センター
- 2月18日(日) 12:00~13:00 定例署名行動(3000万署名)
- 2月19日(月) 18:00~19:00 戦争法反対行動 TX つくば駅改札前
- 3月3日(土) 13:00~13:30 アベ政治を許さないスタンディング TX つくば駅 13:30~14:30 3の日署名行動(3000万署名)
- 3月9日(金) 12:00~13:00 9の日署名行動(3000万署名)
- 3月17日(土) 13:30~16:00 定例世話人会 並木交流センター

